Marco Gallery

Solo Exhibition

「24DOORS」

藤城嘘
2025.09.13(Sat)-10.12(Sun)
Marco Gallery 1F



<24DOORS -Open Sesame->
2025 F8号(384x457mm)
キャンバスにアクリル、油性インク

この度 Marco Gallery では藤城嘘による個展 「24DOORS」を開催いたします。
ぜひご高覧ください。

Marco Gallery

【ステートメント】

私が何かを能動的に創造した最初の記憶は、四方を囲む白い壁とベッドの上から始まっています。5歳のころに、病気で1年間入院したことがあり、日々の時間をラクガキに費やしては、人に見せていました。大きな紙を広げ、看護師さんやお医者さんを巻き込んで、みんなで一枚の絵を描くこともありました。思い返せば、私にとって絵を描くことの原点はコミュニケーションの手段であり、想像力をつかって病室から外に向かうための“扉”でした。
絵画はいまだ“窓”に喩えられますが、その比喩は今も有効なのでしょうか。私の絵画は、出入りできる“ドア”のようなものであってほしいと思っています。デジタルイメージの制作が簡単な時代になりましたが、なお絵画を作ることに惹かれるのは、私たちが物理的な肉体で、分厚く小さな壁のようなキャンバスを、心身を踊らせながら眺め回すことが、面白いと思うからです。
日本のオタク文化やインターネット文化に登場するイメージをそのまま現代性と捉え、絵画のモチーフにしてきましたが、もちろん私が描いてきたものはそれだけではありません。キャラクターは生命力をもったまま解体され、装飾紋様や神仏の世界と触れ合います。植物や、鉱物や、風景のスケッチに溶け込み、20世紀の抽象画に擬態もします。おおきな「アニメアイ」は、ブラックホールのようにぽっかりと開いています。「キャラクター」という表象を通じて、多様な文化や社会、多様な世界へアクセスできる“ポータル”をつくりたいという欲望があらわれているのだと、自分で思っています。
絵の中の「キャラクター」が旅をして様々なものと出会い触れるように、私の絵画が、見る人をべつの時空へと誘う存在であってほしいと願っています。異なる文化や社会を行き来する“ゲート”であり、誰もが外に出るために、中で過ごすために、能動的に手を伸ばす半ば開かれた“扉”でありたいと考えています。『24DOORS』でも私は、"ドア"にラクガキするように絵を描き、そのラクガキした"ドア"を、たくさんの可能性につなげていきたいと思っています。



＜オルガナイズ / ORGANEYES＞
2018 F100 号 3 枚組
木製パネルにアクリル、インク、鉛筆他

Marco Gallery

【アーティスト】



藤城 嘘 / FUJISHIRO USO @lie_fujishiro

・作家来歴 （出生年、学歴、活動拠点）

1990 年東京生まれ。日本大学芸術学部美術学科絵画コース卒業。東京を拠点に活動。

・作家ステートメント

ポップカルチャーと現代美術を融合させ、『キャラクター』を軸に独自の絵画世界を築く画家・美術家。日本人の母と香港人の父のもと、幼少期からマンガ、アニメ、ゲーム、インターネット文化に親しみ、マンガ風の落書きを描くことを好んだ。

高校生になると、ポップカルチャーと現代美術への関心を深め、現代絵画の領域で活動を開始。キャリア初期の 2007 年頃から、「ポストポップ」のコンセプトの元で、インターネット文化に着想を得たドローイングや絵画を制作。同時代のアニメやイラスト、インターネットミーム、落書きやいたずら書きといった要素を融合させ、絵画のルールをはみ出していくシュールな作品を生み出す。2011 年以降は、東北地方や瀬戸内地域の芸術祭への参加を機に、自然科学や美術史上のモチーフへと着想源を拡張し、キャラクターと融合させた風景画を描く。また、SNS を通じて出会ったアーティストと協働し、「ポストポッパーズ」、「カオス*ラウンジ」、「キャラベスク」などの集団展示を企画し続ける。

多様な創作物を組み合わせ、鑑賞者と共に、現代社会の文化や記憶への新たな視点が生まれる空間を目指している。



<Notebook in the Off-street>
2025 P100 号(1120x1620x35mm)
木製パネルにアクリル、鉛筆、インク

Marco Gallery

・主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

▪ 主な個展

2025「Eyes over the horizon」（Miaki Gallery 東京）
2024「RE:POSTPOP」（pie ソウル）
2022「ルーズリーフ」（スタジオ コウシンキョク 東京）
2021「雑草からはじめる -naturalized characters-」（日和坂アート研究舎 宮城）
2021「脈のラクガキと花のスタディ」（スタジオ コウシンキョク 東京）
2018「『絵と、 』vol.2 藤城嘘」（ギャラリーαM 東京）

▪ 主催企画展示・プロジェクトなど（「カオス*ラウンジ」関連を含む）

2025「散らかしガーデンプレイス」（スタジオ コウシンキョク 東京）
2025「第 6 回芸術ハカセは見た！展 伊丹小夜 ぼくのともだち」（徳島城博物館 徳島）
2024「第 5 回芸術ハカセは見た！展 芸術の植生」（徳島城博物館 徳島 / ギャラリー リブ・アート 愛媛）
2023「人形と仮想」（Miaki gallery 東京）
2022「キャラベスク」（日和坂アート研究舎 宮城）
2018「破滅*アフター」（六本木ヒルズ A/D GALLERY 東京）
2017「Reborn-Art Festival2017」（宮城県石巻市）
2016「瀬戸内国際芸術祭 2016」（女木島 香川）
2016「風景地獄－とある私的な博物館構想」（六本木ヒルズ A/D GALLERY 東京）
2015-17「カオス*ラウンジ新芸術祭」（福島県いわき市）
2014「キャラクラッシュ！」（文京区湯島カオス*ラウンジアトリエ 東京）
2011「フェスティバル・トーキョー2011」主催作品「カオス*イグザエル」（秋葉原エリア 東京）

▪ グループ展

2025「空間彩添」（aL Base 東京）
2025「せいらん」（新宿眼科画廊 東京）
2024「冬の全国大陶器まつり “ぼうねんかい SP（＾ω＾）”」（Artas Gallery 福岡）
2024「FACES」（America-Bashi Gallery 東京）
2024「大きい絵展」（新宿眼科画廊 東京）
2024「cross cross xx」（galerie OVO 台北）
2024「キャラセラミクス」（新宿眼科画廊 東京）
2023「お分かりでしょうけれど、私は画家であることをやめてはいません。」（WATOWA GALLERY、ソノアイダ、ほか 東京）
2023「ローカル!, 로컬!」（pie / 三Q ソウル）
2020「VOCA 展 2020」（上野の森美術館）
2019「TOKYO2021「un/real engine ―― 慰霊のエンジニアリング」」 （TODA BUILDING 1F）

Marco Gallery

▪ アートフェア

2024「Seoul POPCON 2024」（ソウル）

2023「Study:大阪関西国際芸術祭 Vol.3 アート&クリエイティブフェア」（グランフロント大阪 大阪）

2023「ART FAIR IN HOTEL」（フォーシーズンズホテル 北京）

2023「pack artfair 2023」（ソウル）

▪ 受賞歴ほか

2020 VOCA 展 2020 入選

2019-2021 美学校講座「現代アートの勝手口」講師

2016-2020 ギャラリー・イベントスペース「五反田アトリエ」運営



<Magical Eyes on the Land>
2025 F60 号(1303x970x30mm)
キャンバスにアクリル

Marco Gallery

Solo Exhibition “24DOORS”



<24DOORS -Open Sesame->
2025 F8 号(384x457mm)
キャンバスにアクリル、油性インク

出展作家：藤城嘘
開催日程：2025 年 9 月 13 日（土）～ 10 月 12 日（日）
営業時間：13:00-18:00 (最終日は 17:00 まで)
定 休 日 ：月・火・祝日＊水曜はアポイント制
会　　場：Marco Gallery 1F

お問合せ：info@marcoart.gallery
大阪府大阪市中央区南船場 4-12-25 竹本ビル 1F,3F,4F
Takemoto BIDG 1F,3F,4F 4-12-25 Minamisenba Chuo-ku, Osaka City, Osaka, Japan
Tel: +81 06-4708-7915 E-mail: info@marcoart.gallery